

クリスマスツリーの起源

日本聖公会聖アグネス教会 牧師 大岡 創さん



写真AC

キリスト教国でない日本でも、クリスマスは文化あるいは一つのイベントとして人々の生活に浸透しています。その点では、このシーズンは最もキリスト教に親しみやすい時なのかもしれません。

そのクリスマスにつきものの「クリスマスツリー」について少しお話ししたいと思います。

クリスマスツリーの起源は、ごく初期のころは古来の「冬至」の祭に関連していました。そして、わたしたちになじみの深い飾りつけをほどこした「モミの木」は、「木」ではなく「飾りつけ」に意味があると言われていて、飾りつけされた木は、旧約聖書のいわゆる「楽園追放」のお話に出てくる「善悪を知る木」、アダムとイブが食べてはいけ

ないと言われた果実を食べた木を現していたようです。この物語はキリスト教ではいわゆる墮罪物語とされており、その罪ある人間はクリスマスにイエス・キリストがおいでになることによって罪から解放されることをツリーで表したのです。

クリスマスが12月25日と決められたのは、4世紀のことですが、それまでは1月6日をクリスマスとして守っていました。そして、その1月6日には洗礼を受ける習慣があり、クリスマスのシーズンは洗礼を受ける準備の期間とされていました。それは罪を洗い清めて新しく生きなおすことを意味します。その期間、自分たちのあり方、生き方を振り返るために「善悪の木」を象徴するクリスマスツリーが教会の前の広場や、教会の入り口

に飾られたのだそうです。ですから、あのまるい球は、実はとっては決して食べてはいけないと言われていた木の實を現していたのでした。

その後、12月25日をクリスマスと定めてからも、おそらく人々はその飾りを見て、そのクリスマスを待つ期間、心静かにして、クリスマスにイエス・キリストを自分の心の中に迎えることによって、新たにされることを祈り、また期待していたのではないかと思います。やがて、クリスマスツリーの樹は、イエスによって新たな生命が与えられた、その命を現すようになりました。

そういう意味では、クリスマスはわたしたちの新しい始まりの時です。

市民クリスマス

弦楽四重奏コンサートと礼拝、三条通界隈でキャロリングをします。共にキリストの誕生を祝い世界の平和を祈りましょう。



詳細はHPを
ご覧ください

弦楽四重奏コンサート 礼拝&キャロリング

2021年12月17日(金) 18:30-21:00

会場：ウィングス京都2階イベントホール(京都市中京区東洞院通六角下る)

入場料：500円(小学生以下無料) 全席自由席

協賛：京都ウエストワイズメンズクラブ、京都キャピタルワイズメンズクラブ、
京都みやびワイズメンズクラブ、京都ウェルワイズメンズクラブ

お問い合わせ先 京都YMCA本部事務局 075-231-4388 honbu@kyotoymca.org



サバエキャンプ場 73年の歴史に感謝を込めて

2021年のサマーキャンプをもって、京都YMCAサバエ教育キャンプ場は閉所となりました。1948年から73年間、たくさん子ども達の出会いと体験、成長の場として、多くの人々の思い出に刻まれてきました。これまでの歴史に感謝を込めて、サバエの思い出を振り返ります。

私を育ててくれたサバエとの別れ

元京都YMCA主事・サバエキャンプ長 小林 哲夫 さん

毎年夏が来ると1955年～88年まで過ごした琵琶湖のキャンプ場を思い出す。YMCAでボランティアリーダーをしていた時からキャンプに取りつかれ、7～8月はほとんどキャンプ場で過ごしていた。

場所は滋賀県近江八幡市佐波江町で琵琶湖のほとり、比良連峰を真正面に、白砂青松の美しい景観であった。

比良の山並み 前にして
きれいな水と 白い砂
緑の小松も 呼んでいる
ここがサバエのキャンプ場
キャンプキャンプキャンプ本当に素晴らしい

キャンプソングの歌詞。
1～6番の歌詞に童謡のメロディーをつけて、みんなで歌った。

このキャンプ生活にはまり込んでYMCAの仕事を本業とし、30年以上もキャンプ生活を続けた。結婚して家庭を持ってからも夏のキャンプは続けた。7～8月しかオープンしていないキャンプ場に50日以上も入った夏もあった。家で「明日から母子寮のキャンプだ。」と言ったところ、妻に「うちも参加できるのか？」と皮肉られたこともあった。

1948年に開設されたこのキャンプ場も今夏で閉じられることとなったという。昔は1回60人程の子ども達が3泊4日のキャンプに次々と来ていたのに、今では、集団でのキャンプなど参加する子どもやリーダーが年毎に少なくなり、キャンプが成り立たなくなったということらしい。

私たちが学生の頃は、このキャンプがグループワークの実践の場で、リーダーの共同研究でレクリエーションプログラムや軽スポーツなども開発したのにと残念でならない。

しかし、考えてみればキャンプ場開設から70年以上も経過して人々の生活様式もすっかり変化しているのに、今更自然に親しむ野外生活と言っても人の心には届かないだろう。

8月の終わりに、リーダーOBOGで最後のキャンプファイヤーを囲みたいと思っている。（2021年7月寄稿より）



サバエの閉場に寄せて

ボランティアリーダーOB 平野 尚洋 さん

まだ今でも、初入佐（サバエに入ることを「入佐」という。ちなみに出ることは「出佐」）を覚えている。7月初め、土砂降り、薄暮時、サバエ名物「穴掘り」で先輩たちは迎えてくれた。手渡されたのは、スコップ。私のサバエ生活は名物から始まった。いったいサバエに何個の穴をあけただろうか。

ただの大学4年間の夏ではない「特別な夏」だった。7月初めから9月初めまでの約2ヵ月間、生活の本拠はサバエだった。サバエから大学に行き、授業や試験を受けたこともあった。

ある先輩は言った。「価値観を揺さぶられるような経験は、なかなかできない。」と。その言葉が今も胸に残る。サバエは、子どもたちの成長の場だが、それ以上に若者を成長させてくれる場だ。子どもたちが安全で楽しく、時にはさみしさやつらさも経験をし、思い出をたくさんつくるために、リーダーとなった若者はともに過ごし、議論をし、汗を流し、一体となってキャンプを迎え、笑顔の子どもたちを無事に送り出す。意見が対峙することもあった。だが、目的は「子どもたちのために」それだけで何日も何日も手を止め

ず、考えを止めず、サバエで過ごすことができた。社会に出てからもこの時の経験が活きていると感じる。

OBとなっても夏の足音を聞くと、私の足はサバエへと向かった。「子どもたちへ、若いリーダーたちへ」サバエがよりよくなるように、少しでも力となり

たかった。また、OBやOGだけでなく、関わった人たちがいつでも帰ってこられる場所をつくりたかった。残念ながら、今夏でサバエは長い歴史に幕を下ろすこととなったが、思い出だけではない多くの宝物を私たちは持っている。

うまく言えそうにはないけれど、私たちは「アオハル」の地を失った。ただ今日もきっと琵琶湖は凧だ！



学生時代の平野さん。サマーキャンプ中、子どもたちと琵琶湖でカヌーを楽しんだ。

ワイズデー スポGOMIで海岸清掃

舞鶴の海を楽しくきれいに
環境問題と地域課題へのアクションで社会貢献

ワイズメンズクラブ京都部 ワイズデー

“ごみ拾いはスポーツだ舞鶴「べっぴんな海に」大作戦！今、やらんとあかんやろ！”

SDGsの広まりやCOP26の開催により、環境問題への関心は世界中で高まっています。海に漂う大量のプラスチックごみは、海洋生物の誤飲誤食等、地球環境に深刻な影響を及ぼしており、重要な環境問題の1つになっています。京都YMCAのランチがある舞鶴市も、例外ではありません。

11月7日、京都府舞鶴市の神崎地区にて、ワイズメンズクラブ京都部主催・京都YMCA共催・日本スポGOMI連盟協力のもと、海の豊かさを守る取り組みとして、海水浴場等の清掃活動を実施しました。ワイズメンズクラブメンバーやYMCAの学生等関係者約230名が参加しました。

テーマは「楽しみながら清掃活動に参加」すること。制限時間内に競技エリア内のごみ

を拾い、ごみの質と量をポイントで競い合う「スポGOMI」に挑戦しました。46チームに分かれて「スポGOMI」を楽しみ、制限時間の1時間で計約400キロのごみを集めることができました。

また、神崎海水浴場では、ペットボトル等のプラスチックごみだけでなく、秋になると大量に落ちてくる松葉の清掃も地域課題になっています。これまでは地元住民が主体となって清掃作業をしてきましたが、地域の高齢化により担い手が不足し、自治体や住民への負担が増えています。このままでは、人材不足で清掃活動を続けられず松の落ち葉が放置され、松が生育できなくなってしまう。住み続けられるまちづくりに取り組もうと、舞鶴YMCA国際福祉専門学校と在籍学生

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



神崎海水浴場のそばで松葉の掃除をする舞鶴YMCAの学生たち。



「スポGOMI」競技中の参加者たち。チームに分かれてゴミを拾っていく。

たちが、地元の方々と共に松葉の清掃活動を行いました。

環境問題、人口減少や高齢化。社会は解決しなければならない問題をたくさん抱えています。京都YMCAでは、YMCAが「地域になくしてはならない存在」として地域を支えていくために、様々なアクションを起こしています。

ユースからシニアまで、幅広い年代の人々がYMCAの活動に参加し、SDGsに取り組み、地域社会を支え、よくしていく。これが、京都YMCAの目指すビジョンです。これからも、地域や人と人のつながりを生かして新たな取り組みに挑戦し、地域社会への貢献、そして持続的なYMCA活動の推進に努めていきます。

黒木保博さん知事表彰受章

「京都府青少年健全育成成功労者等表彰」受章
おめでとうございます

公益財団法人京都YMCA評議員、学校法人京都YMCA理事・評議員である黒木保博さんが、青少年の健全な育成への多大な功績を讃えられ、この度京都府知事表彰を受章されました。

黒木さんは事業委員としてウエルネス事業の運営に携わり、その後財団法人常議員等を歴任。現在は役員として京都YMCA全体の運営に関わり、長年に渡って京都YMCAの青少年育成事業を支えていただいています。

受賞をお祝い申し上げるとともに、京都YMCAへのご奉仕に感謝いたします。



知事表彰を受賞された黒木保博さん

故酒井善弘氏 を偲んで



今年の9月に肺がんのためご逝去された、京都YMCA 第10代総主事 酒井善弘氏。生前、総主事として京都YMCAの組織改革に手腕を発揮され、そのおらかな性格から多くの会員やスタッフから慕われました。今回、酒井元総主事と親交があった方々にご寄稿いただきました。

酒井善弘元総主事の思い出 元京都YMCA理事長 児玉 實英 さん

広島YMCAから酒井主事が京都に来られてしばらく後、はじめてお会いしたときのことです。第一印象は、このお方は、驚くべき人ではないかということでした。礼儀正しく、精悍。明るく謙虚で健康な方でした。広島YMCAには、当時全国のレイ・リーダーが尊敬していた相原和光総主事という方がおられました。柔和で凄腕。その上若い主事やリーダーを立派に育てておられると聞き及んでいました。だから、酒井主事にお会いした瞬間、この方はきっと大いに期待できる俊才にちがいない、と感じたものです。

着任後、酒井主事がアツという間に、誠にYMCAらしい予備校を立ち上げ、拡げていかれたことは、皆さんよくご存じのとおりです。その酒井主事に目をつけ、上手にひっこ抜いてきた京都YMCAの当時の高谷泰市総主事のけい眼や度胸、そしてリーダーシップ

にも感服したものです。

その約20年後、「SKY」と呼ばれて恐れられていた駿台予備校、河合塾、代々木ゼミナールの3校が、次々京都にも進出してきた時のことです。酒井主事は京都YMCAの総主事に就任、むつかしい時代の荒波に、敢然と立ち向かわれたのでした。残念ながら、規模縮小を強いられ、退職していく京都YMCAの主事の方々のために、酒井総主事は、再就職先をけんめいに探して美しく送り出していたかれました。そして新しいレールを敷いていかれたのです。その責任感の強さには、誠に頭のさがる思いでした。酒井元総主事のこと、いつまでも忘れることはできません。

「クンバイヤ・マイロード」の歌と祈りをお捧げいたします。

酒井さんを想う 滋賀YMCA前総主事・元京都YMCA職員 祝部 康二 さん

酒井さんの訃報に接し、ただただ驚いています。

旧三条本館の老朽化に伴う本館建て替えと事業構造の再編成が検討されていた当時、新たな進学教育・予備校部門の主任主事として着任をされました。当時、京都YMCAとして初めての予備校運営ということで多大な苦勞をされました。1980年、完成した三条本館では私と事務局が隣合わせとなり、教職員の動きがお互いに見える位置で業務をしていました。酒井さんは朝一番に出勤して先ず受付カウンターや教職員のデスクを雑巾がけしておられました。その後、教職員が出勤するころには自分のデスクでの業務を

進めておられました。日頃の姿からは想像できないものであり、部門トップとしての姿勢を見た思いでした。

日頃は厳しく積極的に業務をこなされる酒井さんですが、個々のスタッフとの会話では明るく励ましておられたことを思い出します。新たな三条本館での基幹事業のとして健康教育、語学教育、文化活動などとともに京都YMCAを支えて来られました。その後、総主事に就任されましたが、バブル崩壊後の社会的不安定な時期でもあり、大変なご苦勞をされていたことを思い出します。

酒井さん、どうぞ安らかに眠りください。

Amazon「みんなでサンタクロース」物品支援

あたたかい気持ち、たのしいクリスマスを届けよう

みんなでサンタクロース▶
施設の子どもたちにプレゼントを



Amazonによる社会貢献活動「みんなでサンタクロース」プログラムは、Amazonの「ほしいものリスト」を活用したチャリティキャンペーンです。各種団体・施設が、希望する物資の「ほしいものリスト」をAmazonのサイト上で公開し、プログラムに賛同するユーザーがそのリストから商品を購入すると、応援物資として支援先に届きます。YMCAはパートナーとして全国23YMCAにおいてこのキャンペーンに参画しています。

2021年のクリスマスを子どもたちと思いきり楽しむために、ほしいものリストを準備しました。子どもたちが豊かな学びをもち、仲間とのかけがえのない時間を過ごすことができるよう、サンタクロースとなってご協力をお願いいたします。



詳細はHPを
ご覧ください

お問い合わせ先

京都YMCA本部事務局 075-231-4388 honbu@kyotoymca.org

発達障がい児理解セミナー

特性が気になる子のサインを知って学齢期を安心して愉しく

学校で気になるこだわりやうっかり、苦手なことに手立てをうち、子どもたちの魅力を生かして、親子で楽しむ方法について理解を深めます。

2022年2月12日(土) 13:00-15:30 (12:45開場)

会場：キャンパスプラザ京都 第4講義室
JR京都駅中央口より西へ徒歩約5分

参加費：1,000円(当日お支払い)

※託児室の準備はございません。
※体温を計測の上、37.5℃以上の場合
参加をお控えください。

先着
45名

お申込みは
こちらから



講師：小児科医 有井悦子先生

有井小児科医院院長。長年にわたり、発達障がいの診療を行う。京都市学校医会顧問、京都府いじめ防止対策推進委員会委員、NPO法人ののさん理事を務める。

お問い合わせ先

ウエルネスセンター075-255-4709 wellness@kyotoymca.org

SNSで最新情報をお届け！

京都YMCAでは、SNSにて最新情報やプログラムの活動の様子を随時配信しております。是非チェック＆フォローをお願いします。



メール配信サービスのススメ

YMCANews(京都版)は、京都YMCAのメール配信サービスにも掲載しております。メール配信での購読をご希望の方は、QRコードからアクセスの上、ご登録ください。

